

# 今月の星空



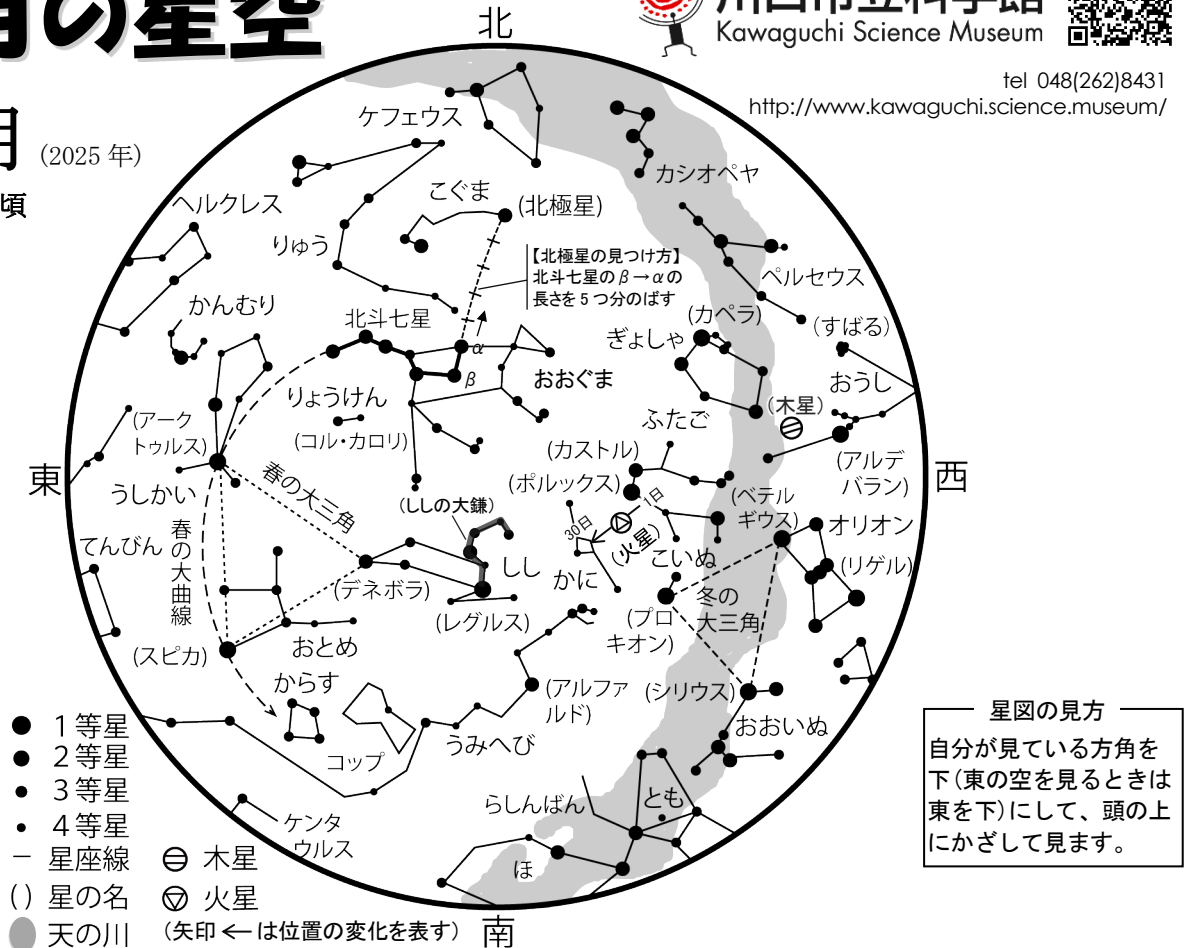
川口市立科学館  
Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

http://www.kawaguchi.science.museum/

4月 (2025年)  
中旬 20時頃



月 齢 ●上弦 5日、○満月 13日※今年最小の満月、●下弦 21日、●新月 28日

惑星情報 金星 日の出前 東(うお座 -4→-5等)※27日 最大光度

火星 夜のはじめ頃 南西→西(ふたご→かに座 0→1等) 木星 夜のはじめ頃 西(おうし座 -2等)

## ☆春霞に広がる春の星座と火星

この時期、夜空は冬に比べて大気中のチリや水蒸気が多く、やや霞んで見え、どこことなく春ののどかな印象の星空が広がります。春の星座の特徴は、「しし」や「おおぐま」、「うみへび」など、大柄な星座が多いことです。市街地では細かく星をたどることが難しいですが、まずは、南の空のレグルス(しし座)や東の空の「春の大三角」から星座をたどりましょう。春の大三角をつくる3つの星の明るさを比べると、最も明るくオレンジ色が特徴のアークトゥルスは0.0等、続くスピカは1.0等、最も暗いデネボラは2.1等で、ほぼ1等級ずつの差(約2.5倍の違い)がありますので、見比べてみてください。

また、西の空では、0等台で輝く火星の動きにも注目です。星図のとおり、月初めは、ふたご座のポルクスの近くに見えますが、しし座の方向へ日に日に離れていき、月末には、かに座に移ります。

## ☆川口市から見る北極星～緯度によって変わる星空～

北の空の高いところに、おおぐま座が昇ってきました。その一部である北斗七星は、市街地でも見える明るい7つの星が“ひしゃく”の形に並びます。この北斗七星から北極星を見つけてみましょう(星図参照)。右図のとおり、北極星は地軸の延長線上に見えるため、地球が自転しても位置が変わらず、北の方角を知ることができます。加えて、北極星の見える高さは、その観測地の緯度を表すため、北緯35度の川口市では35度の高さに見えます。

一方、南の低い空には、とも座(船尾のこと)やほ(帆)座など、かつては一つであった巨大なアルゴ船座の一部が見えています(星図参照)。右図のとおり、川口市から見える空の範囲は限られますが、地平線の下にも星座は続いています。川口市から南下すれば、地平線の下で見えなかった星たちが見えるようになります。この時期は、天の川を南へたどっていくと、みなみじゅうじ座やケンタウルス座など、明るい星が多く、にぎやかな星空が広がっています。

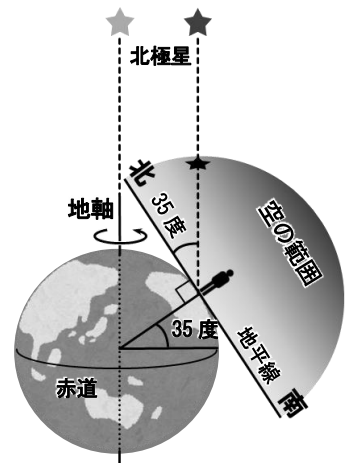


図 川口市から見る北極星と空の見える範囲